



宮城 社会 3.11大震災

事故遺族の「安全学会」 大川小遺族らと交流

学校事故などで子どもを亡くした親や研究者でつくる「子ども安全学会」のメンバーが9月下旬、東日本大震災の被災地を訪れ、児童と教職員84人が犠牲になった石巻市大川小の児童遺族らと交流した。メンバーは「子どもたちの犠牲に共に向き合い、再発防止を発信したい」と訴えた。

メンバーは、2年前に私立幼稚園のお泊まり保育中の川遊び事故で当時5歳の長男を亡くした東京都小金井市の吉川優子さん（43）ら4人。石巻市などで9月25～27日、大川小遺族や園児5人が犠牲になった同市の私立日和幼稚園の園児遺族らと意見交換した。

大川小では、5年生だった次女を亡くした紫桃隆洋さん（50）と3年生の長女を失った只野英昭さん（43）が状況を説明。紫桃さんは「子どもたちの死の原因や責任の所在は曖昧なまま。真相解明のため裁判に踏み切ったが、真実は分からないと思う」と語った。

吉川さんは「学校や行政の安全管理意識のなさ、事後対応の悪さはどの事故にも共通する」と強調。「同じ思いを抱える遺族同士がつながることで、保育や教育現場の日常的な安全管理の問題点を洗い出せる。社会全体で子どもを守る必要があることを訴えたい」と話した。

安全学会は9月、吉川さん夫妻が中心となって設立。保育・教育現場の安全管理や事件事故の情報を共有し、子どもを守るための提言などを行う。今後は震災の犠牲者遺族とも交流し、子どもが犠牲になる事故の再発防止を呼び掛けていくという。



大川小で児童の遺族から被災状況を聞く吉川さん（左から3人目）ら